Hijicho
市大新聞

2011.7.1
第4号

落語研究会　六之次さん
2-5面　文化週間インタビュー



# 12面 優勝なき三商大戦で緊急会議

## 6面 学生の力は無限大, FDで

**文化週間インタビュー**
2面　・F.L.D.
4面　・漫画研究会
5面　・SHK市大放送研究会

**イベント情報**
9面　・あさかで祭り　10/9
17面　・Réforme2011　8/18

## 18面 市大のネコ事情

10面　宿命のライバル　府大戦
14面　どこでもネット、そんなの常識なのに
15面　BOX協の精神は生きている
19面　関西チャリティ美術展
21面　コラム・日本「日本酒と向き合う」
24面　クロスワード

「**既存芸術の拡大**」はウェブで公開
http://hijicho.com/?p=162

**Hijicho 市大新聞 第4号**, 2011年7月1日, 大阪市立大学 学生メディア団体 Hijicho 発行
リアルタイムな情報とお問い合わせは http://hijicho.com/ または http://twitter.com/hijicho

# Foreign Language Department

## 文化週間 vol.1

**はじめに**

今回、数編に渡って文化週間の記事を書かせていただく。今回はその第一弾だ。文化週間の記事、それはただ単に事実を羅列するだけの記事であってはならない。更に深いところまで迫っていかなければならないと感じている。文化系サークルが、いかに大きなポテンシャルを秘めた存在なのかを伝えていきたい。今回は、いくつかの団体をピックアップして取材させていただいた。市大が誇る珠玉の文化サークルの素晴らしさに気づいていただけたら幸いである。

**F.L.D.とは**

6月22日(水)、8号館内の教室で、F.L.D.が公開ディベートを行った。F.L.D.は別名「大阪市立大学ESS」、普段は、ドラマセクションとディベートセクションに分かれて、週2回練習を行っている。ちなみにF.L.D.は、「Foreign Language Department」の略である。 今回、「Academic Debate」というスタイルのディベートを見せていただいた。 「Academic Debate」において、行為者は２人１組でチームを組み、あるテーマに関して肯定と否定に分かれて議論していく。今回、彼らは「大学生のアルバイトを禁止すべきか？」というテーマでディベートを行ってくれた。実際にディベートを拝見してみると、彼らの英語力の高さに圧倒された。まさに彼らは英語を英語として使っている、私はそう感じた。 ディベート終了後、F.L.D.の部長である島田 直也さん（文学部3回生）にお話を伺った。

**ディベートの魅力とは何でしょうか？**

―通常日本語で行われるディベートを英語でやるので、英語で言いたいことを伝えられるようになる点と、ディベートをやっているとどんな情報にも疑ってかかるということが身につくという点の二点が魅力だと思います。ディベートでは肯定、否定の両方をやるんですよ。だから、片方の意見ではなく、相手からの意見もある。いろんな方向から物事を見る能力が身につくのと、そしてそれもまた英語で表現できるようになるのが魅力ですね。

**他大学との交流はあるんですか？**

―こういったディベートの大会が月1・2回あります。同志社大学・大阪大学・大阪府立大学などいろいろな大学が集まって、例えば市大などを借りて大会を開いているので、そこでの交流がありますね。大きな大会になると関東の大学との交流もあります。

**大会における成績は？**

―4月の、3回生以上の関東・関西の学生が集まった大会では、市大としてはチームで3位になりました。5月にはJNDTという今年の前期の一番大きな大会があって、そこでは関西予選を勝ち抜いて全国予選のベスト8まで残りました。

Writer：ディベートを見て、F.L.D.の方たちは非常に

高い英語能力を有していることがわかった。また、学外の大会で好成績をおさめていることから見て、相当な実力を有していることは間違いない。だからこそ、この質問をぶつけてみた。】

**この大学の英語教育についてどう考えていますか？**
―僕個人の意見になってしまうとは思うんですけど、1回生の時に英語の授業を受けてみて、めっちゃ簡単やなと思いました。スピーキングの授業だと教科書も小学校みたいな感じなので。英語教育センターというのが市大の隣にあるのに、先生によって教え方が違いますし、いい先生に当たると結構いい授業が受けられたりするんですけど・・・・もっと統一してレベルにあったという、もうちょっと上のレベルでやってもいいのではと思いますね。

**逆に、よいと思う点は？**
―僕がよかったのは、文学部の英米学科の先生とかもこの英語で教えているので、そういう先生にあたっていい授業を受けられたので、それはよかった。そういう形の授業を全部で統一してやれたらいいのかなあと。

**この大学の英語教育には、課題が山積みですね。**
―クラス分けについて成績ごとに分けているとはいうものの、個々の学生に合っているとは言い切れないと思いますね。

**今回見せていただいたディベートを英語教育に取り入れたら、学生の英語の運用能力は向上するでしょうか？**
―そうですね。ディベートには、準備もいりますし、自分で原稿などもつくったりするので、英作文の能力も向上するでしょうし、そして喋る能力もつくと思いますね。ただ週2回、それも90分なので、実際にできるのかどうかは疑問ですが、もし取り入れたらそういう力はつくのかなと思いますね。
**なるほど、大学生にとって相応しい英語とは何なのか、制度だけではなく、メソッドに関しても考えていく必要がありますね。**

**市大生に対して何かメッセージがあればどうぞ。**
―ESSに入って欲しいと思います。学校で英語を話す場が欲しい、学校の英語で物足りない、とかだったら2回生とかからでも部員を募集しているんで見に来てくれてもいいですし、12月ぐらいにドラマの公演を行うのでそういうイベントがあるというのを知っていただけたらと思います。

**まとめ**

今回F.L.D.を取材して、彼らがもつスキルの高さには驚嘆させられた。そして実際に、ディベートの大会において好成績を収めている。まさに市大が誇るべき団体だろう。 そして、この大学の英語教育に関しての考えも聞かせていただいた。島田氏は「僕個人の意見になってしまうが」と前置きした上で、意義深い意見を述べてくれた。「いい先生にあたったらいい授業が受けられる」。当然その逆を言えば、悪い先生にあたったら悪い授業を受けなければならない、これはある種の不公平さが生じているといっていい。

F.L.D.は日々自己の英語能力を磨き、部内で切磋琢磨し合い、大会に臨むというすばらしい活動を繰り広げている。今回はその一部を垣間見ることができた。大学の英語教育から一歩も二歩も進歩した存在、それがF.L.D.ではないだろうか。まさに彼らは、市大における英語のprecursor＜先駆者＞である。

(鶴木貴詩)

# 漫画研究会

## 文化週間 vol.2

**普段はどのような活動を？**
―パネルや部誌の制作が主な活動です。あとは基本的に、同じ趣味を持つ人たちで楽しく話し合う、和をつくることをモットーにやっています。

**なぜ文化週間にパネル展示を行おうと？**
―毎年やっているからというのもありますが、1回生の創作物の発表の場というのを結構早めに設けたいというのがありますね。この機会を逃すと、文化祭まで持ち越しなので。上回生の僕たちが、新入生がどんな絵を描くのか見てみたいというのもありますし、新入生に漫画を描くという機会に触れていただくために、毎年参加しています。基本的に壁に並んでいるのは、一回生が創作した新作のパネルです。毎年新しく仕上げるというのをモットーにやっています。

**漫画を描くことが好きな方たちが集まっているんですか？**
―そうですね。僕の場合は、描くのはあまり得意ではありませんね。もともと漫画が好きだからという理由で入りました。それでも、彼らに影響されて描くことはありますね。はい、最近の傾向をみると描くのが好きな人が入ることが多いですね。

**文化週間は、部としての活動を広報する場としてどうですか？**
―他大学の方にも声をおかけしました。広報の場として、活動を広める場として、十分にありがたく思っています。

**パネル展示初日を終えてみてどうですか？**
―来てくれる人がいるのはうれしいですね。また、新聞部の人に目を留めてもらって、満足しています。

教室内にはパネルが並ぶ

漫画研究会会長の半田さん

**まとめ**

今回、漫画研究会を取材してみて、部の方針や雰囲気に非常に感銘を受けた。1回生に早くから活躍の場を与える、これは各団体とも見習うべき姿勢ではないだろうか。そして、その1回生たちが描いたパネルは妙々たるものであった。本当に漫画を描くことが好きな人たちが集まっているのだろう。また、部内にはアットホームな雰囲気が漂っていたように思う。半田氏の言う「和」、それはまさに組織を運営していく上で重要となってくるものである。私は漫画研究会に、「和」づくりの大成を見た。

（鶴木 貴詩）

# Shidai 市大 Hoso 放送 Kenkyukai 研究会

文化週間期間中の昼休み、旧教養地区食堂前で、SHK市大放送研究会が公開ラジオを実施した。実際にお聞きになった方もいるであろう。 今回は、初日の6月22日（水）の放送終了後、放送を担当していた吉岡さん（文学部1回生）にお話を伺った。

## 文化週間 vol.3

**普段はどのような活動を？**
―最近では、有恒会の司会、ボート祭の放送やCM企画を作るなどの活動をしています。今回の文化週間のようなゲリラ放送は、普段はやっていません。

**なぜ文化週間に公開ラジオをするに至ったのか？**
―毎年恒例の行事だからです。自分たちなりに構成を考えて、取り組みました。

**今回の文化週間、SHKとしては事前に十分に広報することができたか？**
―このラジオ放送企画自体の宣伝はしていません。通りがかった人に聞いてもらうというスタンスだったので。

**初日を終えてみて、公開ラジオの手ごたえはどうだったか？**
―30分の構成を、1回生同士で考えてやりましたが、時間配分をミスしたところもありました。全体としては上手くやれたと思います。

**メディアと放送、HijichoとSHKは今後コラボすることもできるのでは？**
―可能性はないことはないと思いますが、こういった「放送」は、文化週間しかしていないので、どうコラボするかを考える必要があるかと思います。

**市大生にメッセージを**
―楽しめたのでよかったです。聞いてくださってありがとうございました。

**まとめ**
SHK市大放送研究会は、様々な行事で司会や放送を担当しますます躍進を遂げている。まさに市大の行事には彼らが欠かせないと言える。今回は、そんな彼らが公開ラジオを行って市大生の耳を楽しませてくれた。「ゲリラ放送」という定義づけは面白い。確かに、「ゲリラ放送」である以上事前告知は必要ない。そう、ゲリラだからこそ、インパクトを与えることができるのだ。今回は、ゲリラ活動の可能性を見出すことができた。ゲリラこそが何気ない日常に変革をもたらすのだ。

（取材：井坂直矢 記事：鶴木貴詩）

生活科学部QOLプロモーター演習
地域における大学のあり方を考える学生フォーラム

## 震災を考えて 大学と地域を“つなげる” フォーラムディスカッション

# 暴発?! フォーラム ディスカッションで 決起か?!

6月24日(金)、生活科学部の「QOLプロモーター公開演習」に、学生メディア団体Hijichoが登場した。そして授業の一環として、イベント「震災を考えて大学と地域を“つなげる”フォーラムディスカッション」が実施された。今回Hijichoのフォーラムディスカッションを QOLプロモーター演習とコラボレーションする事に快く耳を傾けてくださり、迅速で適切なアドバイスをしていただいた西川先生 (生活科学部) に深く感謝の意を表したい。

### 防災の専門家も参加

本学の副学長でもある宮野氏の地域防災に関するお話では、日頃からの地域交流が重要であるという話や、他人を守るために個々が防災の知識を理解しておく必要があるという話があり、参加者は真剣に耳を傾けていた。

### 地域交流には学生だけでなく大学当局も

その後の学生からのお話では、ボランティアセンター学生スタッフ代表の脇川友紀子さんが地域交流の重要性と、そのための具体的な課題（現状や問題点など）を演説した。地域交流とボランティアは密接な関係があり、どちらも重要である。大学の機関であるボランティアセンターが、それらを発展させていくためにもっと広く躍動してもよいはずであるが、実際にその一歩を踏み出せていないのには学生と大学当局との間に存在する障害が原因のようだ。(ここではその内容は省略)。会場全体は脇川さんの主張に共感しており、地域交流には学生が動くだけではなく大学当局も一緒に協力して動かなければならないことは間違いないようだ。

▲40名以上が来場

## どのような交流が可能か意見交換

本イベントの目的は大学と地域の交流の重要性を認識したうえで、どのような交流ができるか具体的な案を出すことである。当日は6グループに分かれてそれぞれのグループから様々な案が出た。

・自転車に乗って地域をパトロールする。地域の方からお話を聞けたり、防犯などに役に立つ。

・プロサッカー選手を呼んで、スポーツ教室、試合などを行う。また、コンサートなども。

・大学の近くの飲食店のメニューを学食に導入する。また、おしゃれなカフェなどが大学の近くにあれば行きやすい。

・市大体操を創作する。地域の人に大学に来てもらって体操をする。

・バーベキュー、石窯つくりなどを地域と大学が協力してやっていく。定期的な夕食会があると良い。

・町内会には、下宿生は入っていない。入る必要があるのでは。

・あいさつ運動をしよう。朝会った人、散歩をしている人など。

・町探検をしよう。周辺の町にある様々な店に行ってみて、紹介していく。

・大学の中で植物を育てる。一回限りで終わらないところがよい。学生と地域の方々が長い間関われる。

▲実際に挙げられた地域交流の具体案

## 立ち上がれ市大生

学生メディア団体Hijichoは、今回出た案がひとつでも再現されるように、今後もいっそう地域との交流を積極的に行っていくつもりだ。そのためには、これまでその実現を阻んできた様々な障害を壊していかなければならない。

## 学生の真意を実現する上で

もちろんここでいう障害というのは一概に決められるものではない。大学に存在する、多すぎるルールであったり、ルールが多すぎるという事それ自体であったり、大学全体の体質であったり、様々である。

イベントをひとつ企画するにあたっても様々な障害が存在する。そのひとつが「時間」である。例えば、企画書が学生担当部長に届くまでに時間がかかり過ぎる。役所に見られるような縦割りの組織づくりが邪魔しているからであろう。学生の真意を、ただ一人の仲介人によって消滅させられることなく、直接届けることが出来るような仕組みが必要である。

## 学生の力は無限大

大学と地域を“つなげる”と言うが、大学とは学生である。学生と地域がつながり、盛り上がることが、大学当局にとってもその本分を全うすることになるはずである。大学が学生を信頼し、学生が本来持つべき自由を保障することが重要であると筆者は思う。様々な立場の方が同じフィールドで気楽に話し合う場を提供できた今回のイベントを機に、各所で進展があることを望んでいる。参加した学生たちは、「学生の力は無限大の可能性を秘めている」という事を知り、次はその可能性を実現していこうと心中で決意したはずである。熱い想いをもった学生たちの躍動の日は近い。Hijichoは今後も地域とのつながりを強めていきたい。そして広げていくつもりだ。

## 集計したアイデアについて

今回のフォーラムディスカッションでは受付で大きな紙を配布し、参加者各位に自身の案を書いていただき、その上でディスカッションに臨んでもらった。案を書いた紙を周りの人に見せながら話してもらうことで、より分かりやすくしようという工夫である。プロジェクトチームは、フォーラムディスカッション終了後にこの用紙を回収して参加者の皆さんの意見を拝見させていただいた。当日発表されることはなかったが、様々なユニークな案があったのでご紹介したい。

・OCU48をつくろう。このOCU48は各学部から数人選出され、地元＆市大の広報を担う、いわゆる地域密着型アイドルである。OCU48の存在自体が話題づくりになると考えられる。

・避難所生活体験。地域の住民、学生が体育館で実際に避難所生活をシミュレーションしてみる。

・杉本町をにぎやかな学生街にするプロジェクト通称：SNIP

・小中学生向け学習・遊びサポーターボランティアの創設。

▲発表には至らなかったが独創的な交流案

どれも独創的な案ばかりだ。これらの案は、議論がいかに充実したものだったのかを物語っている。フォーラムディスカッション、それはまさに円卓に集いし者達のCreativityの炸裂だったのではないだろうか。Hijichoでは、このような案の一つ一つを拾い上げ検討していきたい。そして実現に向けて前進していく。そう、Hijichoは未来を切り開くのだ。

## 楽しいからこそ生まれた案の数々

参加者には本フォーラムディスカッションに関するアンケートも書いていただいた。アンケートの内容は「本日の感想、考えたことなどについてどうぞご自由にお書きください」というシンプルな内容にした。以下がその回答と考察である。

・意識の高い人がたくさんいて刺激になりました。

・楽しそうな案がいっぱいあったので実現できたらいいなと思います。

・今日は良いフォーラムでした。学生から地域を愛そうという発想が出たのが素晴らしい。

・呼んでいただいてありがとうございます。ホント楽しかったです。こういうことをやり続けたら、きっと面白いことになりますね。

▲高く評価してくださった回答が多かった

アンケートでは「楽しかった」という感想が目立つ。「楽しい」場でだからこそ、すぐれた案が生まれるのだ。そのような場を築くことができたのは、プロジェクトチームとして誇りである。

## 改善、そして持続こそが重要

また「こういうフォーラムを何度か出来れば」「今日のフォーラムをきっかけにしてこれからも取り組みを継続させていきたいと思う」など、フォーラムディスカッションの次回開催を望む声も多かった。一回限りにしてはならないと思う。そう、フォーラムディスカッションは持続してこそ意味のあるイベントである。このような地域と大学を結ぶ場が、真の「つながり」を作り出すのである。

ただ、「討論の時間をもう少しとってほしかったです。せっかくいい意見が出かけたのに時間がないから議論につながらなかったものですから」など、グループディスカッションの時間が短いという意見もいくつかあった。このような問題は十分に検討し、次に生かしていかなければならない。

様々なユニークな案を出すことができ、参加者の高い評価も得た第1回フォーラムディスカッション。我々Hijichoは、第2回の開催も検討していきたい。住吉区に巻き起こった地域交流の芽生えを、ここで終わらせてはならない。

## Written by

中野寛之 (Hijicho)
鶴木貴詩 (Hijicho)

## Previous Article

「大学と地域を “つなげる”フォーラムディスカッション」
(http://hijicho.com/?page_id=361)

## To Be Continued

今年11月3日 (予定) に開催される「大阪市立大学ホームカミングデー企画 タウンミーティング (仮称)」にHijichoが協力。第2回フォーラムディスカッションを開催します。詳しくは次号 (10月発行) または「Hijicho Web」にて随時ご案内いたします。(変更になる場合があります)

10/9

# イベント情報 あさかで祭り

「あさかで祭り」という市大周辺の地域で行われているイベントをご存じでしょうか？

この祭りは地下鉄御堂筋線の地下鉄車庫が浅香中央公園に生まれ変わったのを機に始まりました。毎年400〜500人ほどの地域の方が参加する、今年で11回目となる大きなお祭りです。今年も、3ヶ月後の祭りに向け、すでに企画が進められています。

### 開催要領

第11回 あさかで祭り
2011年10月9日(日) 10:00〜14:00
浅香中央公園プロムナード水上ステージ周辺

### 学生の参加で地域交流

市大のクラブ・サークル、学生の皆さん！ステージ出演やブース出店などでこの祭りに参加しませんか？昨年も市大のいくつかのサークルが参加し、参加して良かったという声が多数出ました。普段の活動の成果を発揮するだけでなく、地域の皆さんとの交流を深めましょう。また、浅香という地域を知るきっかけにもなればと思います。地域の方も、市大生の積極的な参加を期待しています。ぜひ一緒に地域を盛り上げましょう！！

## Contact

**大阪市立大学 学生メディア団体 Hijicho**

**お問い合わせ**
http://hijicho.com/?page_id=330

**Hijicho Web**
http://hijicho.com/

**Twitter**
http://twitter.com/hijicho/

# 宿命のライバル

## 第36回大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会

今年で36回目を迎える、大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会 (府大戦) が、6月18・19日 (土日) に開催された。去年まで14勝19敗 (1分け1中止) で5つの負け越し。果たして今年の結果は。そして府大戦にかける意気込みは―。府大戦実行委員長の宮田渚さん (文学部3回生) にお話を伺った。

### 今年の府大戦はいかがでしたか？

― 開会式とか閉会式とか、いろいろ準備があったんですけど、去年よりはいいものにしようと。18・19日以外にやるクラブとかもあるんですけど、「開会式・閉会式にはみんな来よう」と今年は強く言ったので、開会式も盛り上がってよかったです。

### 今までの府大戦と比べていかがでしたか？

― (会場が) 市大のときは開会式に出席者がなかなかそろわないことがずっと課題だったんですが、今年それを変えることが出来てよかったです。

### どういう気持ちで府大戦に臨みましたか？

― 府大と市大は大学同士が近く、もっと交流しようと思えば交流できる大学同士だと思うので、ほかの大学よりもお互いが交流を深められたらという意味で、『地域交流』を意識して臨みました。

### 来年に向けて期待することは？

― いろいろ企画とか用意してたんですけど、なかなか浸透してなくて苦労しました。たとえば『予想王』なんかは賞品とか結構豪華だったんですけど、なかなか市大生に広めることができなかったんで、そういうオプションみたいなこともっと浸透させていってほしいなと思います。

### これからの体育会について

― 今年は「もっと活発化しよう」という体育会全体の目標があり、幹部もしっかり動いてくれているので、これからどのように盛り上げていくかを目標にがんばっていきたいです。

### これからの宮田さんについて

― 私はユースホステル部に所属していて、(ユースホステル部は) 試合形式とかのクラブではなくちょっと特殊なので、私自身が体育会のクラブのことをあまりよく知らないという側面があります。だから、もっと体育会のクラブのことを知って、それを外に広めていくというようなことをしていきたいです。だから、いろんなクラブの代表者の皆さんの声に耳を傾けていきたいです。

## 他大学の声

『地域交流』を意識して臨んだ府大戦。せっかくなので市大生以外の方からも一言いただいた。

### 井上剛至さん

(府大体育会委員長 合気道部 3回生)

(今年の意気込みは) とりあえず笑顔振りまいとけ！って感じですね。

**西野駿作さん**
(府大体育会副委員長 陸上部投擲 3回生)
　今年は市大 (の陸上部) が強くて、ヒヤヒヤしました。ギリギリでしたけど勝てて良かったです。

**篠原拓也さん**
(元京都府立大学応援団団長, 現大阪府立大学大学院生)
　勉強しろ！生み出せ！

# 大会結果

　通算優勝回数＝市大14勝・府大20勝 (1分け1中止)
　今年はかなり接戦だった。あとひとつでも勝てば引き分けに持ち込めたのだ。しかしそれを許さない府大は、さすがというべきか。これからも市大と府大はよきライバルとして切磋琢磨を続けてほしい。

Written by
近藤龍志 (Hijicho)

| 種目 | 市大 | 府大 |
|---|---|---|
| アイスホッケー | ● | ○ |
| アメリカンフットボール | ● | ○ |
| サッカー | ○ | ● |
| ソフトボール | ● | ○ |
| バドミントン（女子） | ● | ○ |
| バドミントン（男子） | ● | ○ |
| ヨット | ● | ○ |
| ラグビー | ○ | ● |
| 弓道（女子） | ○ | ● |
| 弓道（男子） | ● | ○ |
| 空手道（オープン戦） | — | — |
| 剣道 | ○ | ● |
| 剣道 | ○ | ● |
| 硬式テニス（女子） | ○ | ● |
| 硬式テニス（男子） | ○ | ● |
| 準硬式野球 | ○ | ● |
| 女子バレーボール | ● | ○ |
| 水泳 | ● | ○ |
| 卓球（女子） | ○ | ● |
| 卓球（男子） | ○ | ● |
| 男子バスケットボール | ● | ○ |
| 男子バレーボール | ● | ○ |
| 男子ハンドボール | ● | ○ |
| 軟式テニス（女子） | ● | ○ |
| 軟式テニス（男子） | ○ | ● |
| 日本拳法 | ○ | ● |
| 洋弓 | ● | ○ |
| | | |
| **計** | **12** | **14** |
| **総合優勝** | ● | ○ |

▲ 第36回大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会結果 (Hijicho作成)

# 三商大戦開催以来 優勝経験なし 危機感から緊急会議

5月27日(金)、雨が降りしきる中、学情１階文化交流室にて市大史上初となる「三商戦・クラブ連絡会議」が行われた。三商大戦とは大阪市立大学、神戸大学、一橋大学の体育会クラブが古くから行ってきた伝統ある大会だ。

**第50回・三商戦クラブの成績と部員数（市大主幹、平成22年度実施）**

| クラブ名と試合日 | 成績と部員数 | | | | | | クラブ名と試合日 | 成績と部員数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 市大 | | 神大 | | 一橋 | | | 市大 | | 神大 | | 一橋 | |
| 女子ラクロス部 6月12日（一橋とは引き分け） | 1位 | 20 | 3位 | 22 | 1位 | 40 | 洋弓部 9月12日 | 3位 | 24 | 2位 | 45 | 1位 | 37 |
| ボート部 6月13日 | 3位 | 50 | 2位 | 75 | 1位 | 66 | ソフトテニス部 9月5日 | 1位 | 14 | 2位 | 20 | 3位 | 20 |
| 男子バスケットボール部 7月1日～4日 | 2位 | 24 | 3位 | 22 | 1位 | 31 | 空手道部（女子） 10月17日 | 3位 | 10 | 2位 | 16 | 1位 | 43 |
| 男子ラクロス部 7月4日 | 3位 | 42 | 2位 | 54 | 1位 | 102 | 空手道部（男子） 10月17日 | 3位 | | 1位 | | 2位 | |
| 陸上競技部 7月10日 | 3位 | 55 | 1位 | 36 | 2位 | 30 | アイスホッケー部 7月3日（神大と二商戦） | 2位 | 20 | 1位 | 51 | — | 30 |
| 男子ハンドボール部 7月10日、11日 | 3位 | 15 | 1位 | 42 | 2位 | 15 | 硬式庭球部（女子） 10月23日 | 2位 | 29 | 1位 | 24 | — | 18 |
| サッカー部 8月7日 | 2位 | 24 | 1位 | 22 | 3位 | 24 | 硬式庭球部（男子） 10月23日 | 1位 | | 2位 | | — | |
| 競技ダンス部 8月7日、8日 | 2位 | 32 | 1位 | 40 | 3位 | 53 | 合気道部（合同練習） 10月23日、24日 | | 18 | | 27 | | 12 |
| 弓道部（男子） 8月14日～16日 | 1位 | 34 | 2位 | 30 | 3位 | 41 | 準硬式野球部 10月29日 | 3位 | 25 | 1位 | 45 | 2位 | 24 |
| 弓道部（女子） 8月14日～16日 | 1位 | | 3位 | | 2位 | | 柔道部 11月23日 | 2位 | 13 | 1位 | 12 | 3位 | 10 |
| 水泳部 8月21日 | 2位 | 15 | 1位 | 34 | 3位 | 37 | 男子バレーボール部 12月18日、19日 | 3位 | 18 | 1位 | 22 | 2位 | 25 |
| 硬式野球部 8月24日 | 3位 | 40 | 1位 | 52 | 2位 | 27 | フィールドホッケー部 12月4日 | 1位 | 21 | 3位 | 23 | 2位 | 39 |
| サイクリング部 8月31日～9月3日 | 3位 | 11 | 2位 | 13 | 1位 | 18 | バドミントン部 12月25日、26日 | 3位 | 18 | 1位 | 35 | 2位 | 30 |
| 応援団（合同練習） | | 7 | | 25 | | 18 | 得点合計／部員数 | 44点 | 579名 | 59点 | 787名 | 45点 | 790名 |
| | | | | | | | 総合成績 | 3位 | | 優勝 | | 2位 | |

大会には50年の歴史があるものの、市大はいまだ優勝経験が無い。これに対し、西澤学長の号令のもと、市大体育会本部、同体育会OB会連合 (OCUSA) の主導で、三商大戦初優勝に向けての今後の課題と対策が話し合われた。会議には三商戦に参加するクラブの現役部員が集まったほか、OBも参加した。

## 部員数＝試合成績

会議において優勝への課題として最も問題視されたのは、体育会クラブ部員数の少なさであった。前回の三商戦の結果を掲載してあるが、その図を見ても分かる通り、クラブの部員数が多いところほど良い成績をおさめている傾向があり、試合の成績とクラブの部員数との間に強い相関関係を確認出来る。三商戦で優勝を勝ち取るためには何よりも部員数を増やすことで、クラブの実力の底上げを行わなければならない。

## 神大に遠く及ばない部員数

では現在、三商戦30連覇中の神大と比べて、体育会クラブ入部者数がどのくらい開きがあるのだろうか。平成22年のデータを参照すると、神大は部員1920名 (調査中) 、市大が1481名と500名近くの差がある。もともと入学者数の段階で大きな差があり、神大は入学定員数が12000名と、実に6400名の定員である市大の2倍に匹敵する。この差を埋めることはなかなか容易ではない。

## 5割を超す退部者も

入部者数の他にも部員の定着率の悪さも、部員数を伸ばす大きな障害となっている。平成22年に体育会全クラブに入部した新入生は545名 (推定) に上るが、その内の4割は1年以内にやめたようだ。また引退を迎えるまでに5割を超える部員が途中で何らかの理由で部活を退いている。一因としては、クラブの上回生が勝ちを目指すあまり、新入生への配慮を欠き、クラブ全体の雰囲気を悪くしているといったことが挙げられるようだ。

## 体育会は就職に強い (?)

部員数の確保、そしてその後の定着は、おそらくほとんどのクラブにとってシビアな問題であろう。これに対して、会議で打ち出した施策が次の6つである。

**1. 時期をずらした新入生向け説明会の開催**
雰囲気が合わず退部した新入生をターゲットに、新たな受け皿として別のクラブへの入部を促進する。

**2. オープンキャンパスで高校生と本学クラブ学生との交流会の実施**
大学入学前から市大の体育会クラブに親しんでもらうことで、高校にはないような競技にも興味を持ってもらい、入学後のクラブ勧誘へとつなげる。

**3. スポーツフェスタ（高校生招待会）の開催**
2と同様、高校生を対象にスポーツを通して市大の体育会クラブ学生、またはスポーツそのものに興味を持ってもらい、入学後の体育会クラブへの入部を狙う。

**4. マネージャーの業務レベル引き上げ**
マネージャーを単なる雑用に終わらせるのではなく、部員一人一人の持つ能力を引き出すクラブマネジメントを実践し、また試合での勝ちに集中するあまり、周りを見れなくなる上回生と下級生とをつなぐ潤滑油的な働きもしてもらう。マネージャーのマネジメント能力の向上によって強く、まとまりのあるクラブをつくる。

**5. 体育会クラブの就職有利を訴求**
世間一般に言われる体育会クラブ学生は就職に有利であることを、客観的データのもと分析して立証し、その結果を新入生と保護者に教育的配慮を以て広報訴求することで、同好会との差別化を図る。また、勉強を理由にクラブを退部する部員への、足止めのための材料とする。

**6. 優秀クラブ表彰規定の刷新**
リーグ戦の成績のみならず、ボート祭など学校生活を活性する行事への参加度を評価することで、勝ち負けの他に、部員をクラブに留めるインセンティブを与える。

## 共通の目標に向けて

いろいろな対策は出たものの、普段からバラバラに活動しているクラブが三商戦初優勝という共通の大きな目標を達成するのは並大抵のことではない。大事なことは、これから先、この会議で出た課題と対策を各クラブの部員一人一人が共有し、クラブ同士が密に連絡を取りながら、共通の目標に向けて各々取り組むことだろう。

Written by

徳永一雄 (Hijicho)

Hijichoでは、6月上旬に市大杉本キャンパス内で市大の学生　（学部生・院生）100人を対象にネットの利用に関するアンケートを行った。その中の「学内のインターネット環境についてどう感じていますか？」という質問に対し「満足」「どちらかというと満足」と答えた人が合わせて64人、「不満」「どちらかというと不満」と答えた人が合わせて26人と、市大の学生は現状の市大のインターネット環境に比較的満足しているように思える　（無回答10人）。しかし、そのアンケートに書かれた意見から、学生たちのある隠れた不満が見えてきた。

## 利用しやすい無線LAN環境が求められている

前述の学内のネット環境についての満足度を問う質問には、回答の「理由」を記入する欄がある。そこに記入された学内のネット環境に関する不満の理由や要望のうち、無線環境を求めるものが30%、接続可能な場所が少ないという趣旨のものが25%、繋がりにくさ・速度に関する不満が25%、パソコン自体の利用しづらさに関するものが20%だった。つまり「もっと気軽にいろんな場所からネットに繋げられれば…」「キャンパス内に無線LANの環境があれば…」といった要望が多いのだ。

## 市大のどこにいけばネットにつながるのか

実は、市大の中にも無線LAN環境がある場所は存在する。たとえば、大学生協の北食堂と南食堂では無線LANが利用できる。インターネットプロバイダーの生協インターネットによる生協スポットというサービスだが、学生ならば生協インターネットと契約すれば利用できるようになる。また、学情1Fの自由学習コーナー・談話ビジュアルコーナーにも無線LAN環境がある。NTT西日本のフレッツ・スポット、NTTドコモのMzoneという公衆無線LANサービスによるものだ。ただし、これらの無線LANのサービスは、結局いずれもそれぞれのサービス主と契約しなければいけないことに注意しなければいけない。現在、市大杉本キャンパス内では、市大生が無条件で利用出来る無線LANの環境はないのだ。

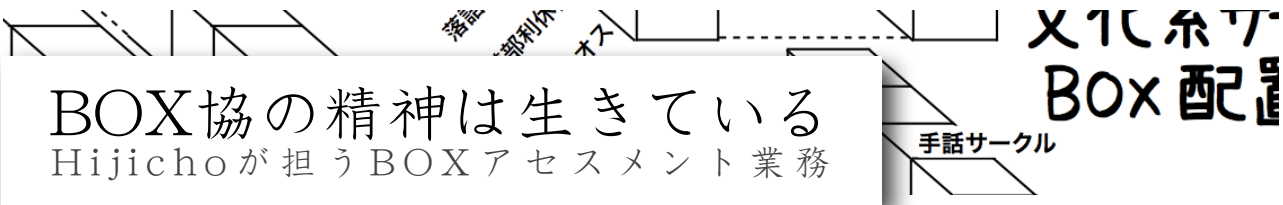
## 他大学の無線LAN環境は

他大学ではどうなのだろうか。たとえば首都大学東京を例にとって考えてみよう。同大は市大と同程度の規模の公立大学であるが、学内の多くの建物で無線LANを利用できる。大阪の公立校として市大とよく比較される大阪府立大学でも、やはり無線LANは導入されている。横浜市立大学や北九州市立大学など、多くの市立大学でも導入されている。以上のような各大学で無線LANが導入されている。「公立大学は私立や国立とは違うから…」「無線LANではセキュリティが…」といった言い訳が通用しないことは明らかだろう。

## 市大の取り組みについて

実は市大も何の取り組みも行っていないわけではない。市大の中でも一部、阿倍野キャンパスや一部の大学院などでは、無線LANが導入されている。いずれ、キャンパスのどこにいても無線でネットに接続できるように環境が整えられることは必然だ。しかし、その「いずれ」はいつになるのか。早い実現を期待して、学生はニーズをはっきり示し続けていくことが大切だ。

(三谷良介)




# BOX協の精神は生きている

## Hijichoが担うBOXアセスメント業務

### BOX協がHijichoと統合

2011年5月30日(月)、四者協総会にて「サークルBOX連絡協議会が学生メディア団体Hijichoと統合」という議案がサークルBOX連絡協議会規約の下で可決された。Hijichoは旧BOX協の業務を見直し、その役割を担っていくことになった。このことは、Hijichoが四者連絡協議会から旧BOX協業務を含むメディア活動を受託することになったということを意味する。今後もHijichoは四者協と連携して諸活動を行っていく。

### BOX協とは何だったのか？

BOX協は正式名称を「サークルBOX連絡協議会」といい、その執行部は四者協から派遣される役員で構成されていた。BOX協が設立される1987年までは四者協がBOX関係の業務を扱っていた。

1987年に学生部が『BOX使用規定 (学生部長がBOXの管理責任者、というもの) 』を四者協に提示、しかも「これを飲まないと市議会が納得しない。予算が出なくなる。」と予算を人質に取る形で四者協に詰め寄ってきた。これに対し四者協は学生部に対抗して300名規模の抗議プラカード行進を行い、さらにBOX協を設立した。

BOX協設立の目的は、

①学生がBOX問題を責任をもって運営・解決していけることをはっきり示すこと

②予算とBOX問題を絡めてくることを断ち切っていくこと

③BOX使用に関する問題やその他BOXに関する陳情処理

④BOXに関する学生の要求を実現する

というのがBOX協の主な活動であった。2000年、学生部から非公認化を受け折衝権を失い、約10年間非公認団体として現在に至る。以下、「BOX協」はHijichoと合体したため、「旧BOX協」と表現する。

### 状況は悲惨だった

旧BOX協の役割は以下のように定められていたが実質的な活動はされていなかった。

> 第2条 (役割) BOX協は次の各号の役割を担うものとする。
>
> 1. 全サークルへのBOX提供を実現するよう大学に働きかける

⇒全サークルへのBOX提供の実現を大学に働きかけていない。問題点はBOX協に権威が全くないという事。学生部が結成更新届を用いて管理しておりBOX協が中継することはかえって非効率である。

> 2. サークルBOXを使用しているサークルと大学側との連絡調整を行う

⇒大学側に働きかけていない。頻度があまりに低い。

> 3. BOX周辺の環境整備を推進していく

⇒各自で責任を負うべき。一斉清掃は企画してもよいが、掃除を促すだけの特別な機関は必要ない。

旧BOX協役員は四者連絡協議会から派遣され、任期は2年間となっている。毎年およそ15名ほどが役員になっているが、上述のように業務が皆無なため、これは名ばかりの役員制度である。また、仮に旧BOX協の業務を拡大させて何らかの活動をしようとしたとしても、役員全員が派遣元の業務を兼任しており、かつ自分自身のクラブの仕事もあることを考えるとその実行は困難であった。これらが旧BOX協衰退の原因になっていた。

## 旧BOX協の根本的な精神は死んでいない

以上のような経緯があり、旧BOX協業務に学生が携わることは完全になくなってしまった。しかしながら、学生の活動に直結し、学生が運営・管理できる事は学生が行うべきであろう。

現在は学生部がBOXを管理しているが、果たして学生部は本当に公平にBOXの振り分けを行っているのか。BOX周辺の事・クラブやサークルの事など、学生目線に立ってみないと細かい事情や真相がわからない事が多く、学生部がそれを取り扱うことはかえって時間のロスを生む結果になっている。BOXを使用しているのは学生であるので、運営・管理は学生が行った方がよいと私は考える。また、学生が主体的に活動していくということは、大学が元気になるということも意味する。大学当局は、大学の主役である学生を潰すようなことをするべきではない。

BOX協業務というのは学生が出来ることは学生で行うべきだと訴えることであった。が、これはBOXの話だけではない。現状では、BOX問題を含め、学生がそれを「知らない」ということが大きなネックになっている。多くの学生が知り、全員がBOXの管理問題など大学の問題を議論しはじめたならば、大学当局も動かざるを得ない。旧BOX協や四者協という存在が一つ固まって存在しているよりも、全学生がいたるところで問題意識を持っていたほうが、学生部にとっては不気味であろう。もちろんそのうえで四者協が大学側と折衝を行えば、よりいっそう四者協の発言力が高まるだろう。

## HijichoがBOX請求の窓口に

現段階ではBOXの管理は全て学生部が行っているため、BOXが欲しい場合は学生部窓口で学生部の規定に従い手続きをしなければならないが、現実にはBOXが欲しいという団体は多く、学生部の査定を受けることになる。

上述したように、クラブ・サークルの活動をよく知らない大学当局から正当な審査を受けることが出来るだろうか。

## 旧BOX協規約を一部改正

Ⅰ総則

第1条 (名称) 本団体は、「BOXアセスメントと広報で学内外を刺激するメディア団体Hijicho」と称する。(通称：学生メディア団体Hijicho)

第2条 (役割) 本団体はBOX業務を通してサークル間の相互交流促進と利害調整を行うとともに、大学とその近隣地域の広報活動を四者連絡協議会から請け負い、その活動を通じて大学とその近隣地域の活性化を図ることを主たる目的とする。この目的を達成するために、次の活動を行う。

1. クラブ・サークル間での公平・公正なBOX配分を目的として、BOX運営業務を行う。
2. 紙媒体、ウェブ媒体等を用いて本学と近隣地域の情報の流通させる。
3. 本学の社会的地位の向上と、クラブ・サークル・大学・地域間の相互交流を促進

V 執行部
第16条 プロジェクトチームの設置

1. BOX総会などBOX業務の運営にあたり、Hijicho内でプロジェクトチームを置くこととする。
2. プロジェクトチームは、日常のBOX運営にあたるとともにBOX業務の方針案を作成し、BOX総会において提案する。

第17条 プロジェクトチームの選出

プロジェクトチームは四者連絡協議会から選出されるスタッフに加え、一般スタッフとの混合チームによって構成される。ただし、四者連絡協議会から派遣されるスタッフはこれを義務としない。

本規約をもってHijichoが先述の不安を拭い去っていく。Hijichoは四者連絡協議会と共に、学生の立場にたって、学生の意見を大学に届ける努力をする。

## Written by

中野寛之 (Hijicho)

## Contact

**大阪市立大学 学生メディア団体 Hijicho**
**お問い合わせ**
http://hijicho.com/?page_id=330
**Hijicho Web**
http://hijicho.com/
**Twitter**
http://twitter.com/hijicho/

# Réforme2011

主催＝大阪市立大学 学生団体 imagine

# 8/18✈20

市大で学生団体Imagine主催のビジネスコンテストを開催します。ビジネスコンテストとは、グループに分かれた参加者がビジネスプランを作成し、プレゼンするものです。

『挑戦　出会いは人を変え、感動は人生を変える』のテーマのもとに、「授業だけじゃ物足りない！」「大学生活なにかやってやりたい！」「でもどうしたらいいか分からない！」と思っているあなたの『挑戦』を、私たちがサポート致します！

まだまだ参加者・観覧者を募集していますので、興味があれば気軽に連絡してくださいね。

▲ 昨年のRéforme2010の様子

## Contact

大阪市立大学 学生団体 imagine
reforme23@gmail.com (担当＝橋迫)

キャンパス内にてネコを見かける人は多いと思う。3か月前から通い始めた新入生ですら、未だ見たことがないという方は滅多にいないのではないか。彼らは一様に人懐っこく、我々人間が近づいても逃げることなく、場合によっては擦り寄って来ることもある。彼らがなぜこれほどまでに人懐っこく、常に滞在しているのか。そしてそもそも何匹が生息しているのか。一見スルーしても良さそうな疑問を、Hijichoスタッフが敢えて迫った。(写真＝上段左から、次郎、モモ、マロン。下段左から、ミケのこども、ミケ、ハナ)

## 一号館キャンパス

今回調査したのは、俗に言う「一号館裏の猫達」である。彼らは一号館の裏手から南食堂までの道のりに頻出し、通りかかる人々をその愛くるしさによって籠絡することを日課としている。現在合計で７匹生息していることが確認されており、白黒の次郎、三毛猫のミケとその子供２匹、ハナとモモ、そしてマロンの７匹である。ちなみに、これらの名前は学生や清掃員の方々が便宜上命名したものである。特定の飼い主がいない以上、これらが正式の名前と考えて良さそうだ。ミケの子供２匹はまだ名付けられていない。

## 取材秘話

清掃員の方にハナや次郎を紹介して頂いている所に少し若いマロンが登場した。生誕約２カ月の雄の子猫で、旧教地区（八号館キャンパス）からやってきたという。こりゃまた可愛いニャンコさんだと思っていると、突然ハナがマロンに対し威嚇を始めた。仲が悪いのかなと見守っていると、その様子を静観していたはずの次郎が突然マロンに向かって跳躍した。一気にマロンの首を抑えつけ、噛みつく。襲いかかったのだと気付いたのは、清掃員の方が次郎を叱りつけ、払いのけた時だった。

清掃員の方によると、新参者のマロンを自分に従わせようとしているらしい。この平和そうに見える猫の世界にもそんなものがあるのかとびびっていると、今度はハナが次郎に対して威嚇を始めた。どうやら、どちらもマロンを自分に従わせようとして争っているようだ。ハナの威嚇を人間語に翻訳すると、「（従える予定の）俺のマロンに手を出してんじゃねえよ」といったところか。

雄同士には必ず発生する争いだとはいえ、恐ろしいものだ。敵に囲まれているマロンが不憫でならない。一方のミケに至っては、根っからの野良猫らしく、人にあまり懐かないという。猫の本質を考えればそちらの方が安全だろう。

懐いた方が可愛いから良いというのは、人間側から見た一方的な見解で、懐くことによるデメリットの方が大きいことに気付く。

人に近ければ近いほど、その善意・悪意の影響を大きく受ける。人の悪意によってイタズラされることは言うまでもなく悲しい出来事であるが、善意で食料を与えることも突き詰めて考えると、良いこととは言えない。

人に懐き、食料を容易く得ることができるという状況は、自然と彼らの野性としての能力を削いでしまう事となる。そうすると、特定の飼い主がいない以上、食料を供給されない日が必ず訪れる。例えば大学生や職員の長期休暇など。その時の彼らの生活はどういったものになるのか。

気になるのでこれからまた追っていこうと思う。市大キャンパスにはまだまだ沢山の猫が生息している。人懐っこい猫もいれば、そうでない猫もいる。もし擦り寄ってくる猫がいれば、撫でたり、可愛がったり、一緒に遊んだりすることは微笑ましいことである。

**From Writer**

さぁ今度は旧教地区の猫と戯れに行こうか。

**Written by**

新舎洸司 (Hijicho)

**To Be Continued**

次号では旧教養地区（8号館キャンパス）のネコを追います。お楽しみに。

# 関西チャリティ美術展

5月28日(土)・29日(日)、関西各地の大学の美術部に所属する学生や社会人、アーティストなどが集結した。市大からも100点以上もの作品が出展されたほか、「みんなでお絵かき教室」や、乾パンを使った「防災クッキング教室」、子ども向けに「かえっこバザール」といったイベントも行われた。今回のチャリティ美術展の開催を受け、関西チャリティ美術展代表の谷脇栗太さん（大阪大学美術部）にお話を伺った。

### この美術展開催のきっかけは？

— 3月12,13日に地元商店街と大阪大学の有志の合同文化祭「いしばし文化祭」（主催：石橋×阪大）に参加させていただき、友人と立ち飲み屋を出店しました。震災のニュースが入ってきたとき、この状況で文化祭や飲み屋をやっていいのか？という疑問が浮かびましたが、逆にみなさんに元気になってもらい、義援金を募ることができればやる意味があるのではということで開催に踏み切りました。この経験から、自分の専門分野である美術方面でもこうした活動ができればと思い、今回のチャリティ美術展を企画しました。

**どのような形で支援を行うのですか？**

— 募金のほか、ポストカードなどを販売しその売上金を寄付する形で支援を行います。売り上げは原則全額寄付しますが、原価がかかっているものについては、例えば半額のみ寄付するといったことを作者の方に決めてもらって、それを明記して販売します。 また、寄付は日本赤十字社を経由して行います。

**なぜ美術展で「かえっこバザール」や乾パンを利用した「クッキング教室」を開催されたのですか？**

— 特に深い意味はないですが、さまざまな人々に来てもらいたいと思ってファミリー向けの企画を考えました。子ども向けには「かえっこバザール」、大人向けには「防災クッキング教室」ですね。参加者の皆さんには楽しんでもらえたようなので、開催してよかったと思います。今後も開催したいですね。

**今後同様のイベントを行う予定は？**

— 今回が第1回目の開催となりましたが、これからもこのようなイベントを行っていきたいです。第1回を大阪で開催することができたので、京都、神戸など関西を巡回する形で開催できればと考えています。次回は半年から1年後の開催を目指して構想中です。開催した暁には、是非お越しください。皆さんのご来場をお待ちしております。

## from Writer

「みんなでお絵かき教室」のブースでは、久保望さん (青桃会) に似顔絵を描くコツを教えていただいた。うまく描くためには、画力よりも、お客さんと仲良くなり、楽しく描くことがベストだそうだ。久保さん自身は、似顔絵を描く際は思い切って描くこと、また描いている最中には絵を相手に見せないことを心がけている、とのことだった。 皆さんも似顔絵を描く際はぜひ試してみてはいかがだろうか？

▲実際に似顔絵も描いていただいた
写真＝久保望さん (青桃会)

今回開催された関西チャリティ美術展では、2日間で42,118円もの売り上げと募金が集まった。谷脇さんをはじめとする開催者さんたちの思いは、きっと被災地へと届くに違いない。

## Written by

三宅千悠 (Hijicho)

## Previous Article

「関西チャリティ美術展で復興支援　青桃会も出展」(http://hijicho.com/?p=118)

## Contact

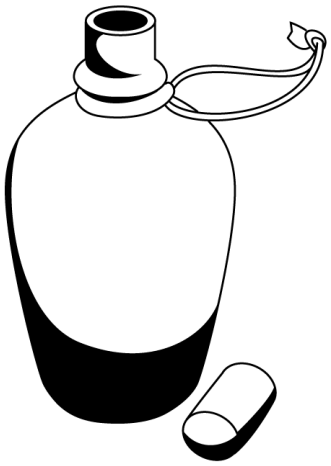
**関西チャリティ美術展**

**ウェブ**

http://charityart.ehoh.net/

**ブログ**

http://kansaiartcharity.blog38.fc2.com/



コラム・日本 Vol.1

# 日本酒と向き合う

日本酒の消費低迷が叫ばれて久しい。日本が世界に誇る伝統文化「日本酒」は、儚くも消えてゆく運命にあるのか。「コラム・日本」、記念すべき第１弾のテーマは「日本酒と向き合う」だ。皆さんは普段、日本酒を口にするだろうか。やはりビール、チューハイやハイボールが中心で、日本酒を飲むことは少ないのではないかと思う。近年、日本酒の消費量が減少しているという事実を耳にする。かつては「酒」といえば「日本酒」のことであった。だが、それも今は昔、日本酒は今まさに窮地に追い込まれていると言っていい。この記事では、日本酒と徹底的に向き合っていきたい。日本酒はただのお酒ではない、我が国が育んだ“芸術”であるとすらいえるのではないだろうか。長いコラムになるが、どうぞお付き合いいただきたい。

## 「日本酒」とは何なのか

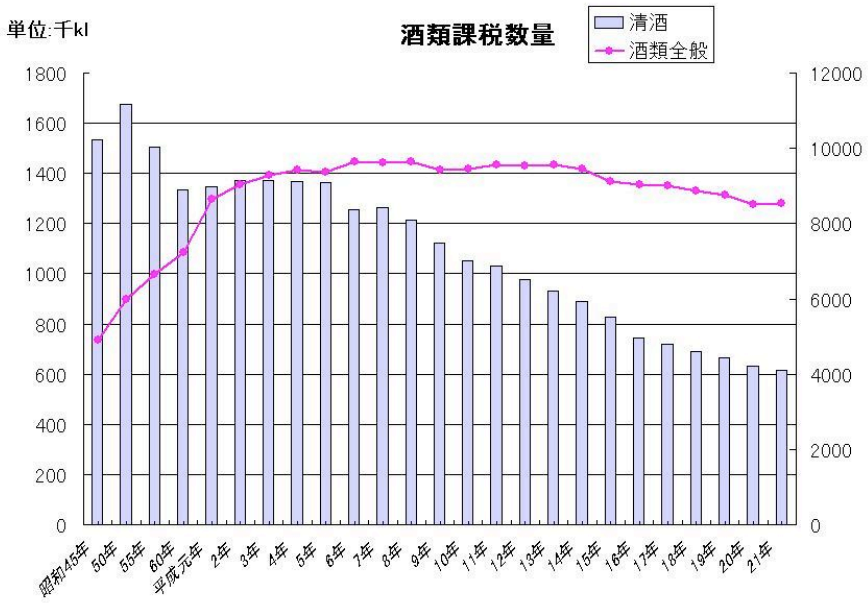
そもそも日本酒 (酒税法上では清酒) とは何か、ご存知だろうか。日本酒とは、酒税法によって「米、米麹及び水を原料として発酵させて、こしたもの」と定義づけられている。

ちなみに日本酒の5割が、ここ関西で作られており、特に灘を擁する兵庫県 (30%) と伏見・城陽を擁する京都府 (15%) で産量が多い。これらの生産地では、酒蔵を見学することが可能だ。ぜひとも足を運ばれてはいかがだろうか。

## 日本酒業界の現状

右のグラフは、日本酒、酒類全般の酒類課税数量の推移を表している。日本酒は左の軸、酒類全般は右の軸である。ご覧の通り、酒類全般の課税数量は増加を続けたあとは、横ばいにとどまっているが、日本酒の課税数量は減少を続けている。このように、日本酒の消費低迷は紛れもない事実なのだ。

▼ 国税庁HP「酒のしおり (平成23年3月)」より筆者作成



## 日本酒の歴史

日本酒は一体いつから存在しているのか。諸説あるが、日本酒のはじまりは稲作が広まった弥生時代以後だといわれている。古事記によると、古来日本は「豊葦原瑞穂の国」と呼ばれていた。神意によって稲が豊かに実り、栄える国…日本国の美称である。稲、そして水はまさに日本の原点であり、これらを原料とする日本酒は、長い歴史と美しい風土によって育まれた、高い技術の結晶と言える。そして、日本酒は着実に日本に根付いていく。そう、日本人の近くには、つねに日本酒があったのだ。

## 開国、そして日本酒は

そして日本は、明治維新に至る。維新回天の嵐と渦の中で、社会の構造が激変する時代、日本酒を取り巻く状況も例外ではなかった。明治維新とともに数多くのビールメーカーが酒造業界に参入した。また明治政府は殖産興業政策の一環として、ぶどう栽培・ワイン醸造振興策を実施した。明治政府は欧化政策の一環として国民の間に西洋の酒を浸透させるため、当初ビールやワインに対しては日本酒に対するような重い課税を行なわなかった。このことが日本人に急速にビール・ワインが浸透したことの一因となったと考えられる。

明治34年、ビールにも課税がなされるようになったが、ワインは無税であった。それ以後太平洋戦争末期にかけて、日本酒にはさまざまな課税がなされていくが、ワインは醸造免許にかかわる税のみで、商品に対する酒税は免除されていた。このことがビール・ワイン業界の活力ともいうべきものを温存し、戦後の業界の復興も差し障りなく行えたと考えられる。今日までのビール・ワインの消費シェア拡大の裏には、実に明治時代の欧化政策が尾を引いている面もあると言えよう。

## 日本酒と、向き合う

前置きが長くなってしまった。だが、日本酒を正しく理解することは「日本酒と向き合う」上で、どうしても必要な前置きである、ご了承いただきたい。さあ、本題に入らせていただこう。

日本酒は、つねに日本人とともにあった。日本人は、日本酒の醸造技術を研ぎ澄ましてきた。そして、日本酒も私たち日本人を育て上げてきた。なぜ日本酒は、日本人の心をとらえ続けてきたのか。私は、日本酒には、日本人の精神が映しだされているのではないかと思う。日本酒は、世界で類をみない高い醸造技術を誇っている。これは、米の味を存分に引き出すという結果を達成するために、最も適切な方法を長い年月にわたって試行錯誤してきたことの結果である。

新渡戸稲造は『武士道』でこのように記している。「もし何かなすべきことがあるとすれば、それをなすための最善のやり方がきっと存在するはずである。そして最善の方法とは、一番無駄がなく、もっとも奥ゆかしいものである」。かつて多くの日本人は、精神を淘汰した上での奥ゆかしさというものを有していた。日本酒にも洗練さを極め続けた日本人の精神を垣間見るのは私だけであろうか。

日本酒は、ただのお酒ではない。あの透き通るような洗練さ、まさに奥ゆかしさを求め続けた日本人の芸術作品である。 しかし、千年以上に及ぶ伝統を誇る日本酒は、西洋文明の介入によって駆逐されはじめた。着実に減退している日本酒の消費量、それはビール・チューハイ・ウィスキー・ワインなど競合するすべてのアルコール飲料との市場シェア争いという観点なくして分析することはできない。日本に怒涛のように押し寄せた西洋文明は、我が国古来の醸造技術を消し去ろうとしているのだろうか？日本酒は瓦解する宿命を背負ってしまったのだろうか？

## 日本酒の、これから

今日、日本酒のハイボールなるものが各日本酒メーカーから発売されている。目にしたことがある方もいるのではないだろか。これは各日本酒メーカーが、ハイボールによって低迷が続いていたウィスキーの消費量が復活したという事実を見てのことである。この他にも、日本酒業界は、宣伝活動・拡販努力に関して、まだまだ打つ手があるのではないだろうか。製法の伝統を守るのは大切なことだが、流通構造などを環境に合わせて変革させてゆくことも必要なのである。

また、海外への輸出が好調であるという喜ばしいデータもある。特に高級な日本酒が好んでレストランなどで扱われているそうだ。これは日本の文化が、優れたものとして世界から認められていることの証だ。近い将来「日本」酒が世界の酒になる日が来るのかもしれない。 今まさに日本酒は、ビール・チューハイ・ウィスキー・ワインなどの諸勢力に対し、戦いを挑んでいる。その存在を世界に明示するように、最後の戦いにその身を投じている。国外では高い評価を受けているが、国内ではこの有様である。日本酒の精神や誇りといったものを最も忘れているのは、日本人ではないのだろうか。“洗練さ”の結晶である日本酒が世界に誇れる文化である事を、我々は理解しなければならない。そして、我々の使命はこの遺産を守り、その精神を損なわないことである。我々の努力がある限り、その光と栄誉は蘇生するに違いない。

## 日本酒は、滅びはしない

過去千年以上にもわたり保ってきた伝統が、突然停止することはありえない。日本酒、それは日本の風土に固有のものであり、歴史上、日本酒は日本人の活動精神であった。それは今なお私たちの近くにあって、力と美を兼ね備えた、生きた対象である。世界中の様々なお酒が手に入る昨今でも特別な行事の際には、日本酒の出番となる。様々なお酒の中でも日本酒は、特別に神聖なものという考え方が現代にも強く息づいているのだ。酒器に注がれた日本酒を想像していただきたい。清らかさや神聖さを象徴するような、静かな美を感じはしないだろうか。

日本酒は、日本の酒であり、何かほかの酒が日本酒にとって代わり、日本の酒文化を守り育てていくなどということは考えられない。日本酒、それは今後も変わらずに、ほのかな芳香を運んで、我々日本人を魅了しつづけることだろう。酒類業界の中で厳しい状況に立たされている日本酒。いま、その真価が問われている。

### Written by

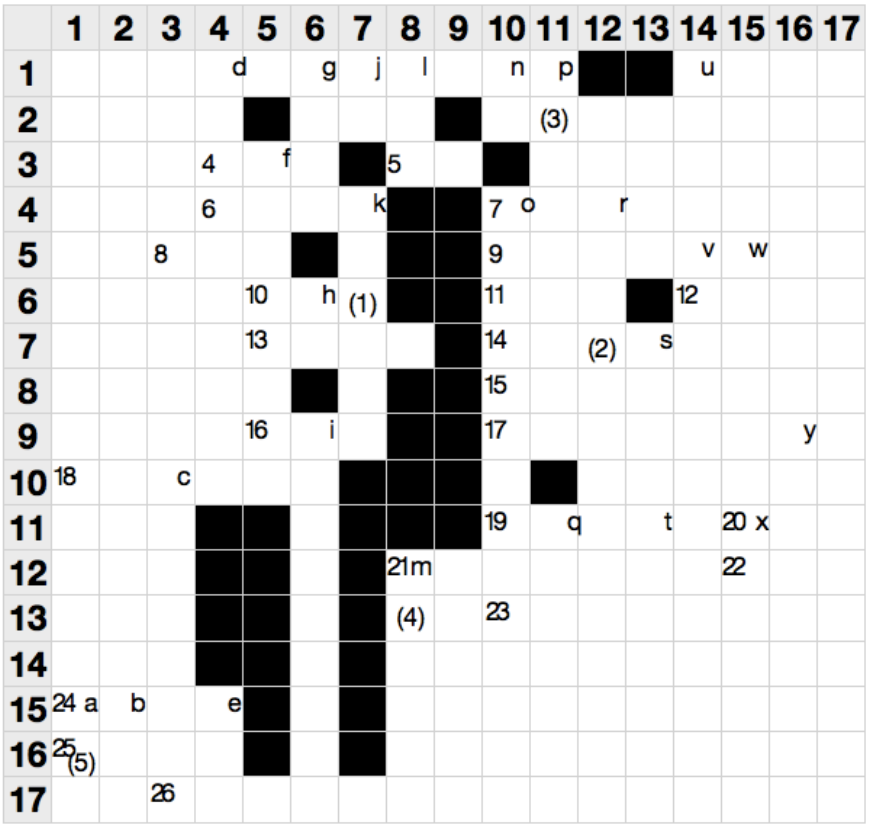
鶴木貴詩 (Hijicho)

### P.S.

お酒は20歳になってから

### Illustration

タイトルのイラストは、「イラストポップ」様 (http://illpop.com/) の利用規約にしたがい使用しております。当該イラストの著作権は「イラストポップ」様に帰属します。



**横方向**

4 口に運び、咀嚼し、飲み込むこと。
5 いわゆる体力。0になるまで全力で戦える
6 いつのころからか下にあったり、箱の中にある。拾ったり投げたりするもの。主人公は自由にこれを使う。
7 大阪市立大学の略称
8 某アニメで吸い込んで肺の中に入れる液体
9 中世ヨーロッパの伝説のCharlemagneの十二勇士の一人。Rolandのいとこ。
10 英語の動詞「狙い撃ちする」
11 guaranteed
12 アヤメ科の各種の植物。または眼球の虹彩。または某ゲームのキャラ
13 乾いた光とか、さびしげな光といわれるもの。夜の都会
14 留学生の受け入れや送り出しをしている団体。
15 フランス北部の県。県都Lille
16 好感度ゼロのキャラクターがこっちに向けてくる目の様子
17 システムを取り付けるという意味の英単語
18 チーズのような気もする様
19 このクロスワードの作者の名前
20 魔力。足りないと魔法に失敗し、仲間に多大な迷惑をかける
21 特許の意味の英単
22 アメリカ合衆国
23 特許微生物国際寄託機関「微生物銀行」
25 農業のという意味の英語接頭語

**縦方向**

a 棒のこと
b 韓国の電機メーカー
c 「剣状の」
d 英語能力検定試験
e おいしいという意味
f プラトンが、ジブラルタルのはるか西にあったと主張した大陸
g 率
h あなたの帰る場所
i 世界がコンピューターネットワークによって支配される未来を描いたSF
j 集積回路
k 記憶
l 「俺、この戦争が終わったら結婚するんだ」の恋人で且つ幼馴染
m サンドイッチ,休日,青空
n 「する」を英訳
o 組織、組合
p 教育
q 詩的な海(英語)
r 「エウレカ」を英訳し、さらに現在形にしたもの
s 自爆用曳光剤
t それ
u 焼け跡に残るもの
v 基本ダメだが、優しいものもあるときく。
w データ記録制御機構
x 美しい調べ
y 時間制限のある選択肢。時間切れは無言を意味する

**Written by**

浅井優幸 (Hijicho)

**Answer**

(1)(2)(3)(4)(5)で英単語が完成
http://hijicho.com/?page_id=298